

のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編②）を開催しました！

■基本設計に向けたワークショップ（アクション編②）の開催

これまでののむら復興まちづくりデザインワークショップ（全6回）でまとめられた「のむら復興まちづくり計画（骨子案）」に基づき、「河川沿いの魅力的な空間づくり」を具体的に推進していくための検討を行う場として、「のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編②）」を開催しました。

愛媛大学社会共創学部 松村暢彦教授の進行のもと、愛媛大学の学生の皆様の協力を得て、実際に検討が進むエリアの現地確認のフィールドワークと、プラン検討のディスカッションを行いました。

【のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編②）の開催概要】

日 時：2020年2月16日(日) 13:00～

会 場：西予市野城総合福祉協会「野城ふれあい館」・計画対象地

主 催：西予市

協 力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

参加者：30名（野村地区自治会、社会教育団体などの公的団体代表者、西予市内在住者など）

進行補助：愛媛大学の学生

主な内容：

○今回のワークショップについての主旨説明

○河川沿い空間の基本設計検討案の説明

○グループワーク ①現地確認

②必要な空間とその理由について

○グループワークの発表とまとめ

ワークショップでの意見は
裏面をご確認ください。



現地確認



グループワーク



各グループの意見の確認

■ワークショップの開催結果

今回のワークショップでは、河川沿い空間整備の具体化に向けて検討しているエリアを、実際に現地確認した上でグループディスカッションを行うことで、活発な意見交換を行うことができました。複数の検討案をもとに各班で計画案を作成しその理由を整理する中で、「バーベキューエリアは神社や住宅の近くではない方が良いのではないか。」「人工芝の広場があれば地域外からの集客も見込めるのではないか」など、安全性や利用頻度などを踏まえて地域に必要な空間について議論することができました。さらに、提示案をよりよいプランにするための改善点についても多くの意見をいただきました。後半は参加者の皆さまが共感した意見を確認することで、今後の基本設計に向けた大筋の方向性をまとめることができ、次に繋がるよいワーキングができました。

■基本計画検討案に対する主な意見

グループごとの成果発表の後、参加者1人1人が「共感するポイント」にシールを貼っていただきました。特に多くの「共感」が集まったご意見を紹介します。

親水空間について …大きく意見が2分

氏宮川と肱川の合流する地点に親水空間を設ける。野村大橋と愛宕山が望めて眺めが良い。



管理の問題や使用頻度を考えると、親水空間は無くても良いと思う。



もっと広いスペースがよい。



バーベキューについて …全体的に意見が一致

神社や住宅の近い場所にバーベキュー広場は無くても良い。芝生広場で許可制で行うのはどうか。



バーベキューをするなら芝生広場で。明確に名前をつけないようにする。



遊具広場の配置について

芝生広場と子どもの遊び場の一体感が良いことから、道路が外側を通る案を採用する。



※全班共通

レクリエーションエリア

3on3のコートを南側に、土の広場を北側にすることで、芝生広場と土の広場を一体的に広く使えるのではないか。



土の広場は他の場所にもあり、臨時駐車場としての利用も頻度が少ないので、人工芝の広場にし、地域外からの集客も見込める場所にする。



乙亥・まちなかエリア

雨天時の利用方法はイベント時に問題になりやすいので、広場に屋根をかけられる構造に。



芝生広場の中心には、噴水など象徴的なものを設けてほしい。



乙亥会館前広場とまちなかデッキを強く結ぶ。



その他、複数の班で共通していた意見

- ・安心して使えるようにトイレが必要
- ・消防通路の確認が必要

モニュメントについて

モニュメントは左岸のステージの上など人が集まる場所に設置する。



愛宕山をのぞむ位置で左岸側からも色々な人から見える場所に設置する。



三嶋神社周辺エリアの管理施設について

地域の集会所として使え、外からトイレを利用できるようにしてほしい。



全体としての課題について

誰がどのように管理するか、考える必要がある。



■今後に向けて

今回まとめた大きな方向性に基づいて基本設計を進め、次回ワークショップで確認いただきます。ただし、河川整備については、県との継続的な調整が必要になることを前提に検討を進めます。